

【事例1】知的障害特別支援学級

学校・学年	中学校・第2学年
障害の種類・程度や状態等	知的障害・自閉スペクトラム症。不安や緊張が強く、集団参加に困難がみられる。

学校生活支援シート（個別の教育支援計画）

1 学校生活への期待や成長への願い(こんな学校生活がしたい、こんな子供(大人)に育てほしい、など)

本人から	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に友達と遊べるようになりたい。人の目が気にならないようになりたい。 ・自分の思いや考えを伝えられるようになりたい。
保護者から	<ul style="list-style-type: none"> ・教室での学習に安心して参加し、クラスのみなどと一緒に行動したり、学習したりできるようになってほしい。 ・生活上必要な読み書きができるようになり、日常生活で使えるようになってほしい。

2 現在のお子さんの様子(得意なこと・頑張っていること、不安なことなど)

<ul style="list-style-type: none"> ・国語が好きで、漢字の学習に取り組んだり、百人一首を覚えたりしている。 ・家庭での手伝いは、自分から気が付くことが多く、進んで取り組んでいる。 ・教室に入って参加するということが難しいことを心配している。失敗や間違いに反応しやすく、失敗が恐くて一歩が踏み出せないでいる。家庭では「大丈夫!」と声をかけるようにしている。

3 支援の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活する。 ・参加できる活動を増やす。 ・将来の自立と社会参加に向けて、学習内容の定着を図り、人との関わることへの自信と意欲を高める。 	
学校の指導・支援	家庭の支援
<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちが混乱した時の対処の仕方を身に付けられるようにする。 ・自分の気持ちを言葉で伝える学習をするとともに、相談することのよさを実感できるようにする。 ・構造化された授業と教室環境、安心できるグループ構成等を工夫し、スモールステップの指導により、学級の中で、みんなと一緒に活動できる時間を増やす。 ・情緒が安定した状態で学習できるよう配慮しながら、学習内容の定着を図る。 ・学級の中で「できた」「わかった」喜びと成就感を積み重ねることで自信をつけ、取り組めることを増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間がかかっても気持ちを伝えられるように、じっくり話を聞く。 ・否定的な感情になっているとき、こだわりがやめられないときは、肯定的な捉え方ができるように、考え方を伝える。 ・母親以外の家族と一緒に活動する時間を作る。 ・弁当箱を洗う、風呂掃除をする、タブレットは決められた時間に行う等、家の中での約束事を必ず守れるようにする。

学校・学年	中学校・第2学年
障害の種類・程度や状態等	知的障害・自閉スペクトラム症。不安や緊張が強く、集団参加に困難がみられる。
事例の概要	感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活し、自己肯定感を高める指導事例

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等について 情報収集
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は自立している。健康状態は良好で、学校に休まず登校している。 ・情緒が不安定になりやすい。特に、人に対する緊張が強く、初めての場所や人への抵抗感により、人と関係を築くのに時間がかかる。周りの人を強く意識しており、自分への評価を気にしている。 ・失敗への不安感や本人が見通しのもてていない活動への不安感が非常に強く、取り組み始めるまでに時間を要する。一度取り組み始められると、その後の活動への取り組み方はスムーズである。 ・場の空気を読んだり、人の感情を理解したりすることが苦手で、状況が理解できずに混乱し、教室を飛び出してしまふことがある。なかなか教室に入れず、別室で過ごす時間が長い。大きな声や音に敏感で、静かな雰囲気を好む。 ・相手の言っていることを理解することができるが、自分の思いを表出することは苦手である。意思の表出は特定の人の前でないと難しい。話すことよりも、文を書いて気持ちを表現することが得意である。 ・手先が器用で、作業的課題は得意である。作業ペースは速く、集中力を持続する力がある。

- 1 収集した情報()を「自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣は自立している。 ・健康状態は良好で、学校に休まず登校している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての場所や人への抵抗感、見通しがもてない活動への不安感が非常に強い。 ・状況を理解することができずに混乱し、教室を飛び出してしまふことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対人緊張が強い。人と関係を築くのに時間がかかる。関係が築けていない人の前や集団の中では、活動することが難しいことが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声や音に敏感で、静かな雰囲気を好む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手先が器用で作業的な課題は得意である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言っていることを理解することはできるが、自分の思いを表出することは苦手である。話すことよりも文を書くことが得意である。

- 2 収集した情報()を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階					
<ul style="list-style-type: none"> ・情緒が不安定になりやすく、教室から出てしまうなどの行動上の問題が生じている。 ・失敗することへの不安、集団に参加できない自分への苛立ち、他者からの評価を意識しすぎていること、自己肯定感の低さが、情緒が不安定になる要因として考えられる。 ・不安な気持ちを言語表現できず、飛び出しや回避等の不適切な行動になってしまう。 ・物事の背景にあることをイメージしたり、繋がりを予想したりすることが苦手である。場の空気を読んだり、他者の感情を理解したりすることが難しく、混乱して情緒が不安定になることがある。 ・本人には友達と仲よくなりたい気持ちはあるが、対人緊張が強いことや状況理解が苦手なことなどから、友達と関係を築くことが難しくなっている。 ・言語理解力・表現力は備わっているが、対人緊張が強いため、担任や支援者に、その時の状況等を説明することが難しい。 ・時間・環境・活動の構造化、安心して取り組めるグループ構成、気持ちに寄り添った指導、想定する困難への対処方法等を学べるようにするなどの指導・支援をしている。 					

- 3 収穫した情報()を卒業後の姿の観点から整理する段階					
<ul style="list-style-type: none"> ・「できること」「わかること」を増やし、自信をもって行動できるようにする。 ・不安な気持ちを自身で落ち着かせる力や困ったときの対処の仕方を身に付けることで、中学校卒業までに、飛び出しや回避等の行動の改善を図る。 ・将来の就労を見据え、高等部の学習を円滑にスタートできるように、中学校卒業までに、少人数グループの中で友達と協力したり、一緒に活動したりできるようにする。 					

を基に - 1、 - 2、 - 3で整理した情報から課題を抽出する段階
<ul style="list-style-type: none"> ・社会的なルールを守ることよりも、自分の感情を優先して行動してしまう。(心・人・コ) ・混乱した時に、気持ちを静める手段を身に付けていない。(心) ・緊張や不安を感じた時に、他者に相談したり、気持ちを伝えたりすることが難しい。(心・コ) ・苦手とする集団活動に参加するための素地となる、自己肯定感が低下している。(心)

で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階
<ul style="list-style-type: none"> ・集団に参加できないことで自己肯定感が低下しており、活動から逃避したり、活動が消極的になったりしていると思われる。時間・環境・活動の構造化、安心して取り組めるグループ構成、気持ちに寄り添った指導、想定する困難への対処方法等の指導により、スモールステップで活動できる場面を増やしていく。「できた」「わかった」という喜びや成就感を積み上げ、自信をつけながら、苦手とする集団活動への参加意欲を高めていく。 ・不安定になった時に、気持ちを落ち着かせる手段を身に付け、不適切な行動を改善していく。不安や緊張を感じたら、気持ちを伝えることで安心したり、場を移して気持ちを落ち着かせたりする経験を積み重ね、相談する良さが実感できるようにする。

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として	に基づき設定した指導目標を記す段階
	<ul style="list-style-type: none"> ・感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活する。 ・不安や緊張を感じた時に、相談することができる。 ・参加できる活動を増やし、「できた」「わかった」という成功体験を積み上げ、自己肯定感を高める。

指導目標を達成するために必要な項目の選定	を達成するために必要な項目を選定する段階					
	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
		(1)情緒の安定に関すること (2)状況の理解と対応に関すること	(3)自己の理解と行動に関すること			(2)言語の受容と表出に関すること (5)状況に応じたコミュニケーションに関すること

項目と項目を関連付ける際のポイント
<p><不安定になったときに、適切に行動するとともに、情緒の安定を図りながら集団活動へ参加することができるようになるために>心(2)・コ(2)・コ(5)を関連付けて設定した具体的な指導内容が ア、心(1)・人(3)を関連付けて設定した具体的な指導内容が イである。</p> <p><安心できる環境の中で、成功体験を積み上げ、自信をつけ、自己を肯定的に捉えることが大切であることから>心(1)・人(3)・コ(2)・コ(5)を関連付けて具体的に設定した指導内容が ウである。</p>

選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定	具体的な指導内容を設定する段階		
	ア	イ	ウ
	<ul style="list-style-type: none"> ・混乱した時は、別室に行き、気持ちを落ち着かせることができる。 ・混乱した時の状況や気持ちを言語化して教師に伝える学習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確実にできる活動から取り組み始め、成就感を味わうことを積み重ねる。 ・自信をつけて、自己を肯定的に捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の安心したグループの中で、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。 ・人と関わることへの自信と意欲を育む。

個別指導計画

令和 年 月 日作成・更新 作成者:

【知的障害特別支援学級】

氏名		本人の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・休み時間に友達と遊べるようになりたい。人の目が気にならないようになりたい。 ・自分の思いを書いたり、伝えたりできるようになりたい。 			
		保護者の願い	<ul style="list-style-type: none"> ・安心して教室で課題に取り組めるようになってほしい。クラスの人々と一緒に行動したり学習したりできるようになってほしい。 ・生活に関わる計算や読み書きができるようになってほしい。 ・学習したことを生活の中でも使えるようになってほしい。 			
		長期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感情や行動をコントロールする力を高め、情緒を安定させて生活する。 ・参加できる活動を増やす。 ・将来の自立と社会参加にむけて、人との関わることへの自信をと意欲を高める。 			
教科等	実態	目標	主な指導内容	具体的な手だて	評価	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことよりも書くことが得意である。 ・経験や見聞きしたことを簡単な言葉で話したり書いたりすることができるが、順序良く書いたり、自分の感想を加えたりすることは難しい。 	<p>友達の発表を聞いて、簡単なメモをとることができる。</p> <p>経験した事、見聞きしたことを「いつ・どこで・だれが・何をした」という要点をおさえて表現する。</p>	<p>休日の発表(話す・聞く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日のことを発表する。 ・友達の発表を聞いてメモをとる。 <p>ニュース調べ(読む・書く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気になるニュースを読んだり、見聞きしたりして、内容をまとめたり、自分の考えを書いたりする。 	<p>「いつ・どこで・だれが・何をした」という要点で書き込めるワークシートを使用する。</p> <p>文章にする前に話を聞き取り、書きたいことを明確にしたり、内容を膨らませたりする時間を確保する。聞き取ったことを付箋に記して視覚化し、文を構成できるようにする。</p>	<p>感じたことを言葉で表すには支援が必要である。</p> <p>書きたいことが決まるといつ・どこで・だれが・何をした」の要点を入れ、一人でまとめられた。日記でも書く順序が整理されてきた。</p>	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がり繰り下がりのある計算ができる。九九は覚えてはいるが、かけ算の意味理解は確実ではない。 ・数量は直接比較・間接比較はできるが、単位の関係は理解していないところがあり、生活の中で利用することはない。 	<p>乗法の意味を理解し、九九を利用することができる。</p> <p>1mのものさしを使い、mmの単位まで計ることができる。</p>	<p>乗法(乗法の意味・九九)</p> <p>長さ(単位の違い・1mまでの計測)</p>	<p>手がかりとして、具体物、絵や図を示したり、同数累加の式使ったりして、乗法の意味の理解を確実にする。</p> <p>長さの単位を体感的に捉える活動を取り入れる。もの長さとして、使用するものさしのメモリの基準を学習内容で使い分け、掴ませたい単位、単位の違いを、より理解しやすくする。</p>	<p>乗法の立式カード・同数累加の立式カード・絵カードを正しく組み合わせることができ、倍と累加の概念が理解できるようになった</p> <p>mm、cm、mの大きさの違いがわかり、身近な物の長さを、ものさしを使って計測することができた。mm、cmの関係を理解し、簡単な換算ができた。</p>	
自立活動	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張を言葉で伝えることが難しいため、回避やパニックなどの行動を引き起こす。情緒が安定しているときでも、気分によって、活動に参加しないことがある。 ・対人面での緊張が顕著で、人と関係を築くまでに時間がかかる。意思の表出は特定の人の前であればできる。 ・体育・音楽・調理実習・実験・掃除等、他者と協調して行う活動には、参加が難しい。 ・視覚的情報があると理解しやすい。 ・話すことよりも書くことが得意である。 	<p>混乱したときの対処の仕方を身に付け、情緒が安定した状態で生活できるようにする。</p> <p>少人数のグループの中で、一緒に活動できる場面を増やす。落ち着いて参加できる授業時間を増やす。成就感を味わうことを積み重ね、自己を肯定的に捉える。</p>	<p>混乱した時には、別室に行き、気持ちを落ち着かせる手段を知る。</p> <p>混乱した時の状況や気持ちを言語化して教師に伝える学習をする。</p> <p>少人数で、本人が安心して過ごせるグループ編成の中で、友達と一緒に活動する楽しさを味わう。人と関わることへの自信と意欲を高める。</p> <p>本人が確実にできる活動から始め、成就感を味わうことを積み重ねる。</p> <p>緊張や不安を感じた時に、担任に自分の気持ちを言葉で伝えられる学習をする。</p>	<p>授業のルール、学校生活の約束事を文章と絵にして提示する。</p> <p>気持ちを静めるための場所、気持ちを落ち着けるために取り組む教材等を用意する。</p> <p>構造化された授業と環境、安心できるグループ構成、気持ちに寄り添った指導等により、学級の中でみんなと一緒に活動できることを増やしていく。</p> <p>授業が始まる前に、学習内容を個別に教える。活動を進める中で予想される困難があれば、その対処の仕方を事前に伝えておき、安心して参加できるようにする。</p> <p>言葉が出ないときは、本人の気持ちを汲み取って言語化して伝える。毎日、日記を書き、自分の思いを言葉に置き換える学習をする。</p>	<p>約束事を文章とともに絵にして提示したことで、教員の説明を補足し、本人が確認できるようになり、教室を飛び出し、校内を徘徊することがなくなった。混乱した時は、別室に行き、数学の計算プリント等に取り組みながら、一人で気持ちを静めることができるようになった。</p> <p>理科と英語の授業に参加できるようになった。苦手だったグループ活動も、版画の印刷作業では班の友達と一緒に活動できるようになった。作業の工程が分かるように事前に伝えることが有効だった。</p> <p>気持ちを口頭で伝えることは少ないが、文章で相手に伝えることで、不安の解決につながり、気持ちの切り替えが早くなった。</p>	